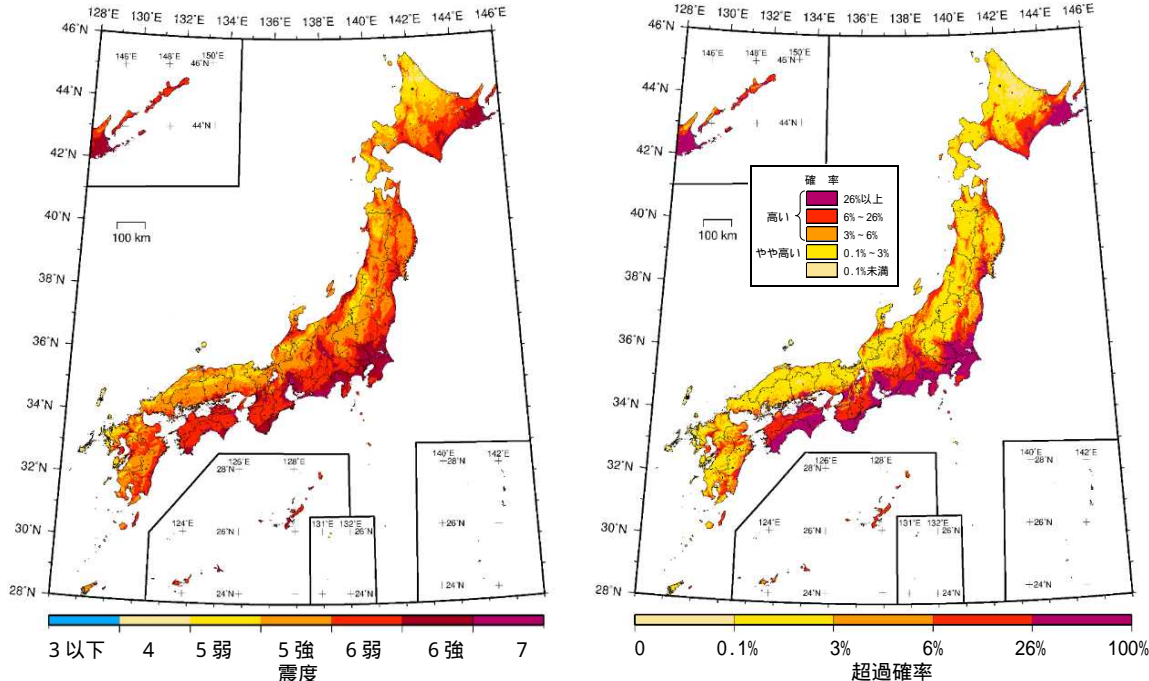


1. 確率論的地震動予測地図

現時点で考慮し得るすべての地震の位置・規模・確率に基づき、各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるのかをまとめて計算し、その分布を示した地図群。揺れの強さ、期間、確率のうち二つの値を固定して、残りを地図に示す。確率の評価基準日は2020年1月1日。



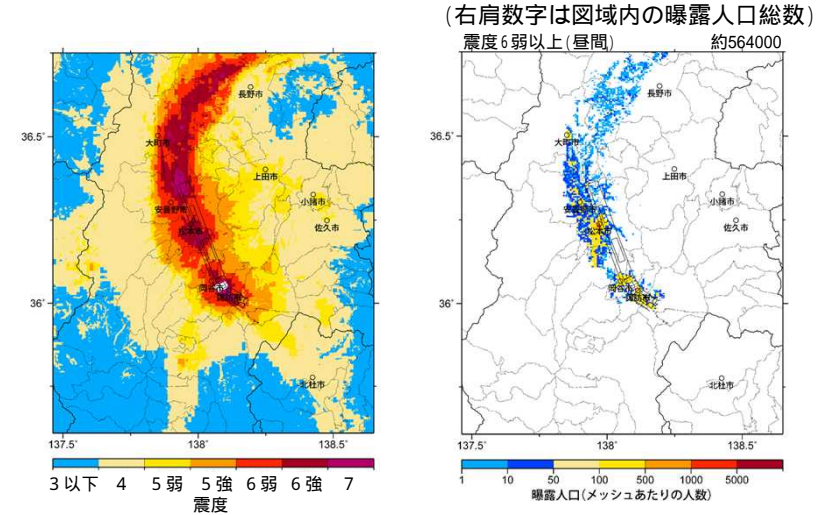
今後30年間にその値以上の揺れに見舞われる確率が3%となる震度 / 期間と確率を固定して震度を示した地図の例

今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率 / 期間と揺れの強さを固定して確率を示した地図の例

「今後30年間に震度 以上の揺れに見舞われる確率」が0.1%、3%、6%、26%であることは、ごく大まかには、それぞれ約30,000年、約1,000年、約500年、約100年に1回程度震度 以上の揺れが起こり得ることを意味している。

2. 震源断層を特定した地震動予測地図 (シナリオ地震動予測地図)

ある特定の震源断層において、地震が発生した場合に各地点がどのように揺れるのかを計算してその分布を示した地図。この地図を活用した例として、ある震度以上の揺れにさらされる人口の分布を示すものがある。



糸魚川 - 静岡構造線断層帯中北部区間が活動する地震による地表震度分布の例

糸魚川 - 静岡構造線断層帯中北部区間で発生する地震で震度6弱以上の揺れにさらされる人口の分布の例

3. 全国地震動予測地図2020年版の特徴

2020年版では主に以下の変更を行った。

日本海溝沿いのプレート間巨大地震や南海トラフ沿いで発生する大地震について従来よりも震源域の多様性を考慮したモデルに変更

震源断層を予め特定しにくい地震のモデルの改良 (東北地方太平洋沖地震後の地震活動の考慮など)

地下構造モデルの改良

地震発生確率の評価基準日変更 (2020年1月1日)

地震動予測地図の配色の変更

地方別・都道府県別の地震動予測地図の掲載

「今後30年間に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率」の地図では、北海道南東部や仙台平野の一部、首都圏、東海～四国地域の太平洋側及び糸魚川-静岡構造線断層帯の周辺地域などの確率が高い。

なお、2018年版に比べて、主に以下の違いがある。

- (1) 東北地方や関東地方北部の太平洋側では、東北地方太平洋沖地震後の地震活動を考慮したことによる確率の増加
- (2) 関東地方では、増幅率の計算に用いる浅部地盤構造モデルを改良したことによる確率の増減
- (3) 山梨県・静岡県・長野県東部では、南海トラフ沿いで発生する大地震の震源域について従来よりも多様性を考慮したことによる確率の減少